

表 3513 2015年中の腹膜炎発症率(回/1患者・年) 治療方法(新分類)別(腹膜透析患者)

治療方法 (新分類)	0	1.0～	2.0～	3.0～	4.0～	5.0～	合計	不明 記載なし	総計	平均	標準偏差
腹膜透析 (CAPD)	2,542	311	74	27	8	15	2,977	1,925	4,902	0.23	0.75
(%)	(85.4)	(10.4)	(2.5)	(0.9)	(0.3)	(0.5)	(100.0)				
腹膜透析 (APD)	1,457	158	39	9	5	9	1,677	1,098	2,775	0.23	0.94
(%)	(86.9)	(9.4)	(2.3)	(0.5)	(0.3)	(0.5)	(100.0)				
腹膜透析 (CCPD)	621	64	19	2		1	707	385	1,092	0.17	0.57
(%)	(87.8)	(9.1)	(2.7)	(0.3)		(0.1)	(100.0)				
合計	4,620	533	132	38	13	25	5,361	3,408	8,769	0.22	0.80
(%)	(86.2)	(9.9)	(2.5)	(0.7)	(0.2)	(0.5)	(100.0)				
記載なし (%)											
総計	4,620	533	132	38	13	25	5,361	3,408	8,769	0.22	0.80
(%)	(86.2)	(9.9)	(2.5)	(0.7)	(0.2)	(0.5)	(100.0)				

数値下のかっこ内は行方向の合計に対する%です。

\*個々の患者の腹膜炎発症率(回/1患者・年)は、1.0未満の数値が0となるため、「0」と表示しています。

\*腹膜透析(CCPD)は、APDと手動のバック交換の両方を行うもの

(C)Japanese Society for Dialysis Therapy

2015年調査